

TAKE FREE

# 消費生活情報誌

志木市・和光市・新座市・朝霞市 共同作成

# くらしのあかり

—賢く暮らすためのみちしるべ—

特集 P2-5

エシカルファッションって何だろう？

つながりあう  
エシカルファッション  
～くらしにとけこむ  
日本の伝統文化～

P6  
よくある消費者トラブル別  
「あなたのだまされやすさはどれくらい？」

P7  
消費者トラブルミニ知識  
2022年4月1日から  
成年年齢が18歳に引き下げられます！



Vol.2  
2022 Spring

©Kevin Kazuyuki Evans



見やすいユニバーサルデザインフォントを使用しています

消費生活情報誌くらしのあかり Vol.2

2022年2月25日発行(年1回発行) 発行/朝霞地区消費者行政連絡会(志木市・和光市・新座市・朝霞市)  
事務局/〒353-0004 埼玉県志木市本町5-24-15EH第9ビル 志木市役所第2庁舎1階 産業観光課

困ったときは、すぐにご相談ください！

## 消費者ホットライン☎188 (いやや!)



※188(局番なし)にダイヤルし、音声ガイダンスに従い郵便番号を入力すると、その地域の消費生活センターにつながります。

※志木市・和光市・新座市・朝霞市の消費生活センターの相談日は、月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く)です。

### 志木市消費生活センター

**場所** 志木市本町5-24-15  
EH第9ビル  
志木市役所第2庁舎1階

**受付** ☎048-473-1111  
(内線)3200

**受付時間** 10:00~12:00  
13:00~15:30

©sbs.or.jp

### 和光市消費生活センター

**場所** 和光市広沢1-5  
和光市役所6階

**受付** ☎048-424-9116  
(直通)

**受付時間** 9:30~12:00  
13:00~16:00

©和光市

### 新座市消費生活センター

**場所** 新座市野火止1-1-1  
新座市役所本庁舎3階

**受付** ☎048-424-9162  
(直通)

**受付時間** 10:00~16:00

©新座市2010

### 朝霞市消費生活センター

**場所** 朝霞市本町1-1-1  
朝霞市役所4階

**受付** ☎048-463-1111  
(内線)2256

**受付時間** 10:00~12:00  
13:00~16:00

©むさしのフロントあさか

### 【お住まいの消費生活センターが休みの時の相談窓口】

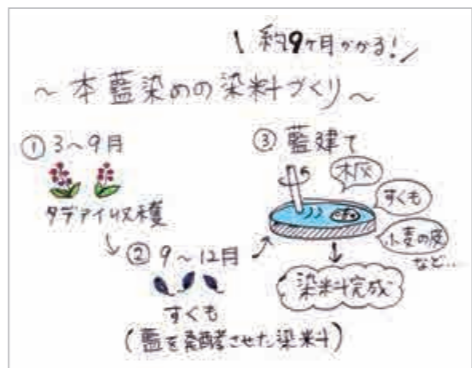
- 埼玉県消費生活支援センター(川口) ☎048-261-0999  
土曜日 9:00~16:00(日・祝日、年末年始を除く) ※平日・土曜日の12:00~13:00も受付
- 国民生活センター ☎188 土日・祝日 10:00~16:00(年末年始を除く)  
☎03-3446-0999 平日昼 11:00~13:00(土日・祝日、年末年始を除く)

市役所	志木市役所 ☎048-473-1111 (代表)	和光市役所 ☎048-464-1111 (代表)
	新座市役所 ☎048-477-1111 (代表)	朝霞市役所 ☎048-463-1111 (代表)
警察	朝霞警察署 ☎048-465-0110	けいさつ総合相談センター #9110
	新座警察署 ☎048-482-0110	
消費生活関係	食の安全ダイヤル(内閣府食品安全委員会) ☎03-6234-1177 平日10:00~12:00 13:30~17:00	
	消費者の部屋(農林水産省) ☎03-3591-6529 平日10:00~17:00	
	リコール情報(消費者庁) <a href="https://www.recall.caa.go.jp/">https://www.recall.caa.go.jp/</a>	
	電気通信消費者相談センター(総務省) ☎03-5253-5900 平日9:30~12:00 13:00~17:00	
その他	朝霞保健所 ☎048-461-0468	日本司法支援センター 法テラス(サポートダイヤル)
	埼玉県医療安全相談窓口 ☎048-830-3541	☎0570-078374
	平日9:00~12:00 13:00~16:00	平日9:00~21:00 土曜日9:00~17:00

クロスワード  
こたえ 【ヨコ】①えいぎょう(営業) ②かさい(火災) ③るすでん(留守電) ④ついし(追試) ⑤らん(ラン) ⑥こい(鯉) ⑦らく(楽)  
【タテ】①えしかる(エシカル) ②さすらい ③いでんし(遺伝子) ④よる(夜) ⑤らふ(ラフ) ⑥けいやく(契約)

# つながりあうエシカルファッション ～くらしにとけこむ日本の伝統文化～

TSUNAGUの最初のプロジェクトでは、徳島県の藍染めとコラボレーションしました。豊かな自然の中で育まれた藍染めは、自然と生き物によって生み出される染めの技術です。藍染めは、「ジャパンブルー」とも言われ、長い間日本人に愛用されている伝統的な染色技術です。中でも、伝統的な工程を守りながらハンドメイドで仕上げる技術が「本藍染め」であり、染料となる蓼藍(タデアイ)を発酵させ、長い時間をかけて草木や微生物がコラボレーションすることで染料が出来上がります。また、藍染めには冷え性や肌荒れへの効果、防虫効果などさまざまな効能があるとされており、自然が持つ力を感じさせてくれます。このように、藍染めは自然からの恵みをいただき、多くの時間と手間をかけて生み出されるものです。自然と人間のつながりを感じる染めの技術は、古くから日本の風土の中で育まれてきた「エシカル」な文化と言えるのではないのでしょうか。



人間と自然がつながりあう 藍染めの世界  
〜世界に誇る ジャパンブルー〜



※1 環境省「SUSTAINABLE FASHION 未来からのファッションを持続可能に」  
[https://www.env.go.jp/policy/sustainable\\_fashion/](https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/)  
※2 国際連合広報センター「国連「ファッション」の流行を追う」の環境コストを「見える化」する活動を開始(2019年4月30日)  
<https://www.unic.or.jp/news/press/features/backgrounders/32952/>

読者の皆さんは、「エシカルファッション」という言葉を聞いたことがありますか。「エシカル(ethical)」は「倫理的な」という意味があり、「エシカルファッション」を直訳すると「倫理的なファッション」という意味になります。これをよりわかりやすく、「環境や労働などに配慮したファッション」と解釈されることが多いです。具体的には、オーガニック素材を使用したり、使い古した衣服をリサイクルして新しい衣服を作ったりするなど多種多様な取り組みが行われています。

このエシカルファッションが盛り上がりつつある背景には、近年国内外で注目されているファッション業界の社会問題があります。環境省のウェブサイトにすると、原材料調達から製造段階における服1着あたりのCO2排出量は約25・5kg、水の消費量は約2300Lと記載されており、とても多くの資源が費やされていることがわかります。さらに廃棄された衣服についても、1日あたりに焼却・埋め立てされる衣服の総量の平均は1300トンもあり、これは大型トラック130台分になるといいます。また、国連貿易開発会議(UNCTAD)では、ファッション業界が世界で第2位の汚染産業とみなされており、世界各地でファッション業界の問題提起がされています。



私自身もドキュメンタリー映画をはじめとした多方面からの情報をきっかけに、ファッション業界に対して問題意識を持つようになりました。自分が着ているものが、実は社会問題につながっているのではないかと。では、社会問題にアプローチするための「エシカルファッション」とは何なのだろうか。私自身、そう思うようになりました。

## 現代につなぐ日本のものづくりの魅力





さらに、多様なエシカルファッションの取り組みの中で、廃棄されてしまうものを新しい価値に変えていく「アップサイクル」という手法もよく見られます。具体的に、アパレルブランド「MUSKAAN(ムスカーン)」では、ヴィンテージの着物をアップサイクルし、ワンピースやジャケット、スカート、バッグなどを製作しています。今では日常生活の中で着る機会が減った着物ですが、昔は埼玉県でも銘仙といった絹織物の生産が盛んでした。しかし、職人の高齢化や後継者不足などにより新しく作られるものはごくわずかとなっているそうです。その中で、MUSKAANでは今では希少なヴィンテージ着物や反物から、現代に通じるデザインを施し、ものづくりをされています。鮮やかで個性的な模様を生かして作られたアイテムは、日本の生き生きとした文化を思い出させてくれます。

藍染めだけでなく、さまざまな日本の伝統技術をエシカルファッションという価値観を通して現代につなげる活動をしているブランドもあります。例えば、私が所属するTSUNAGUの創業者でもある小森優美が運営するブランド「Liv:ra(リブラ)」は、シルクやオーガニックコットンなどの天然素材を古くから日本に伝わる伝統技術の草木染めで染め上げたランジェリーを製作しています。コチニールや茜からピンク色、マリーゴールドからは黄色というように、心に響く鮮やかな色彩が草木によって生み出され、こうした草木の中には漢方として使われていたり、保温性やリラックス効果などの効能があるとされていたりと、まさに「着る漢方」として私たちの身体を守ってくれます。

  Liv:ra公式ホームページ  
<https://www.liv-ra.com/>



  MUSKAAN公式ホームページ  
<https://www.muskaan.jp/>

私に関わる一般社団法人TSUNAGUは、エシカル・サステナブルな(持続可能な)文化を次世代に継承していくことを目指し、2018年に活動をスタートしました。多様なエシカルファッションのアプローチの中でも、日本の風土に根ざしたエシカルファッションの形を模索していきたいという気持ちがあり、特に次世代を担う若者が伝統技術に触れるきっかけを作り、その価値観を広げていきたいという思いもありました。

TSUNAGUでは、徳島県の藍染めとコラボレーションしたワンピースやTシャツ、イヤリング、靴下といったアイテムを必要だけ受注生産・販売してきました。作っている職人さんたちや原価も公表し、どこで・誰が・どのように作っているのか、そしてなぜこの価格になるのかという背景を発信するなど、生産者と消費者の距離を近づける取り組みをしています。日常生活の中で手に取ったものがどのような過程で作られたものかわからないことが多くある中で、TSUNAGUでは、こうした情報発信を通して心に響くものづくりの魅力や日本文化における「エシカル」の側面を伝え続けています。

## 生産者と消費者をつなぐ、「TSUNAGU」の活動

Written by



小澤茉莉(こざわり)

一般社団法人TSUNAGU 理事。  
ウェブメディアなどでエシカルファッションや伝統的なものづくりについて発信している。現在、東京工業大学大学院にて人類学の視点で養蚕文化を研究し、持続可能なものづくりの形を探究中。  
1996年埼玉県生まれ。

# 社会とつながる エシカルファッション

社会問題に対して、私たちは何ができるのだろうか。  
ものづくりの背景を知ること、  
自分自身と社会とのつながりが見えてきます。

一人の消費者として、  
私たちができること

私自身これまでものづくりの現場を訪問し取材してきた中で、長い時間をかけて日本の風土に根付いてきた伝統文化の魅力が感じられました。今回ご紹介したブランドの活動は数あるものづくりの一つであり、まだまだ発信したい魅力的な文化がたくさんあります。

私は、日本におけるものづくりの文化とエシカルファッションのつながりという視点で研究や発信をしています。こうした文化を考えることは結果として社会全体を考えることに結びついていると思っています。環境破壊をはじめとしたファッション業界におけるさまざまな問題が顕在化していますが、そもそもどうしてこうした社会問題が生まれるのでしょうか。この背景には、大量生産のシステムだけでなく、グローバル社会の中で私たち消費者と生産者の距離が広がっていき、自ずと生産背景が見えなくなってしまう構造そのものに問題があるのではないかと思います。だからこそ、生産背景などの情報を発信したり、実際に生産者と消費者が交流できる機会を作ったりするなど、両者を丁寧につなげていくことが問題解決に向けたヒントになると考えています。

近年SDGsをはじめとする社会問題解決への取り組みが盛んになっていますが、大きな社会問題に対して個人がどこまで貢献できるのか疑問を持つ方も少なくないと思います。一人の人間として、消費者としてできることは何か。私は、自分自身と社会のつながりを見出すことこそ、大きな一歩だと思っています。エシカルファッションとは社会や文化とつながるための扉のようなもの。今後もTSUNAGUでは日本の伝統文化を発信していくとともに、藍染めといった染色や、近年、次世代への存続が危惧されている養蚕業に関わる企画も実施し、実際にそうした文化とつながる場をつくっていく予定です。こうした活動を通して、私たちの生活に身近な衣服から「エシカルファッション」、そして伝統文化やものづくりを少しでも多くの方に知っていただけたらと願っています。

## 一般社団法人TSUNAGU

日本に根づくエシカル・サステナブルな文化を次世代に継承していくことを目指し、2018年に設立。これまで、徳島県の藍染めとコラボレーションした商品開発や、エシカルファッションに関する講演、ワークショップを実施。染色などの伝統技術や養蚕業に関わる企画も進行中。また、現在「個人の心の在り方からファッションの世界を再生する」というコンセプトのもと、個人の内面の探究に焦点を当てた実践的なラボを運営している。

Twitter: @tsunagu\_fashion

Instagram: @tsunagu\_fashion

©Kevin Kazuyuki Evans

